

平成 29 年度第 3 回仙台市協働まちづくり推進委員会（第 2 期第 8 回）議事録

○日 時：平成 30 年 2 月 9 日（金）19:00～20:55

○場 所：仙台市役所本庁舎 2 階 第 2 委員会室

○出席委員：風見正三委員長、大橋雄介副委員長、伊勢みゆき委員、小野みゆき委員、
佐々木秀之委員、島田福男委員、庄司真希委員、其田雅美委員、浜知美委員

○欠席委員：高橋早苗委員、本郷一司委員

○事務局：市民局長、市民局次長、協働まちづくり推進部長、市民協働推進課長、
地域政策課長、市民活動サポートセンターセンター長、協働推進係長、
NPO 認証係長、他担当職員

○次第

1 開会

2 議事

仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について

3 報告

- (1) 協働の手引き・事例集について
- (2) 協働まちづくり推進助成事業について

4 その他

5 閉会

○会議内容

1 開会

〔事務局（協働推進係長）〕

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから平成 29 年度第 3 回仙台市協働まちづくり推進委員会を開催させていただきます。議事に入ります前に当委員会の定足数を確認させていただきます。本日ですが、高橋委員、本郷委員からご欠席の連絡をいただいております。そのほか伊勢委員、浜委員につきましては遅れてのご到着ということでございます。現時点で 11 名中 7 名のご出席となっており、出席が過半数を超えておりますので、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例施行規則第 4 条第 2 項の規定に基づき、会議が成立いたしますことをご報告申し上げます。

続きまして本日の資料の確認をさせていただきます。お手元には次第、資料 1 「仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について」、資料 1 の別紙 1 「仙台市市民活動サポートセンターの機能強化 完成イメージ」、資料 1 別紙 2 「マチノワ WEEK リーフレット」、資料 1 別紙 3 「仙台若者アワード最終審査プレゼンテーションチラシ」、資料 2 「協働の手引き・事例集について」、資料 2 別紙 「公開座談会の開催結果について」、資料 3 「『仙台市協働まちづくり推進助成事業』平成 30 年度事業の募集について」、資料 3 別紙 「協働まちづくり推進助成事業 募集要項」、資料番号はついてございませんが、サポセンの広報紙「ぱれっと」の 2 月号、以上となっております。もし資料の不足などございましたら、係の者にお知らせいただければと思います。

それではここからの議事進行は風見委員長にお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

〔風見委員長〕

皆さん、こんばんは。年度末も始まって大変お忙しい時期かと思いますが、ご出席ありがとうございます。本日の委員会は第 3 回となっていますが、本年度の最後の委員会になろうかと思います。今日の報告にあると思いますが、サポセンがいよいよ完成し、そこに向けて走ってきましたので、皆さんで大きな仕事が終わることを確認できるのではないかと思います。

思えば、今期にいろいろなことが実を挙げました。条例ができて、協働まちづくり推進という言葉がしっかりとどこまでとどろいたかということはありますが、まさにこれからサポセンが改新されて、さまざまな提案事業を含めて、今回もいろいろな資料が上がっておりますけれども、より市民に広く理解していただくために、やっと広報ができる時期が来たのかなとも思います。今までの成果をもう一度総まとめしながら今日の会を行いたいと思います。活発なご議論をよろしくお願ひします。

では議事を進めさせていただきます。議事は 1 つで、仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について、報告が 2 件ほどございます。議事録署名人については、今日は伊勢

委員でお願いいたします。

2 議事

仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について

[風見委員長]

それでは、議題の仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について、事務局からご説明をお願いします。

[事務局（市民協働推進課長）]

仙台市市民活動サポートセンターの機能強化について、前回9月の委員会の後の経過を、ご説明してまいりたいと思います。

まず、委託事業者の選定でございます。前回の委員会の後に仕様を取りまとめまして、10月の下旬には業者指名を行い、11月の下旬に提案審査を行ったところでございます。こちらの事業者の提案審査につきましては、本委員会から大橋副委員長、佐々木委員に加わっていただき審査を行ったところです。その中で最高得点を得た1社が選定され現在に至っております。

選定された提案が委員会で評価された点といたしまして、機能強化の趣旨やコンセプトを最も理解した提案であるというところです。特に今回の機能強化に関しては、1階と2階、そして5階の部分が一番のポイントでしたが、1階については用途に合わせてレイアウトをフレキシブルに活用し、居心地のよい空間づくりのため、宮城県産材を使用した内装や什器が提案されていました。それから1階の自動ドアを入ってすぐの風除室にギャラリーコーナーやサイネージを配置することで、外からの視認性も期待できるという提案でございました。

また、5階の交流サロンにつきましては、利用者の用途に応じて複数のゾーン設定ができるという提案でございまして、木製のフレームなどを活用して緩やかに空間を仕切るという新しい使い方も提案されておりました。これらを総合して一番いい提案だということになりました、施工をスタートしたところでございます。

次に、施工の状況でございます。前回の委員会では、施工完了の目途といたしまして3月末とご説明申し上げておりましたが、できる限り早くから使い始められるようにと工期を組みまして、1月の下旬から着工してまいりました。1階、5階、7階については本日までにほぼ施工が完了しており、週明けからは本格的に稼働できるような状況になっております。ほかの3階、4階の部分につきましても、2月下旬までには全て完了する予定で進めております。また、特別の臨時休館を設けず、開館しながら改修を実施しておりますので、利用者の皆様には極力ご迷惑をおかけしないように施工を進めてまいりましたところでございます。

それでは、具体的な完成イメージにつきまして、ご説明してまいりたいと思います。

まず、1階でございます。こちらは多様な主体の交流の場がコンセプトとなっています。壁面・床面には県産の木材を使用して温かみがある居心地のよい空間につくってございます。また、2階の空間活用も大きなポイントであることから、1階と2階との空間調和ということで、ブリッジ部分にグラフィックなどを用いて活用の可能性を広げる工夫もしております。

また、もともと図書コーナーで、本棚などを置いていた奥の部分は、壁一面をホワイトボード化し、プロジェクターなどをつけまして、イベントの際にここをステージとして活用できるようにしております。

また、交流掲示板の新設ということで、ここで利用者間の交流や意見交換ができる掲示板などを設けてまいりたいと考えております。受付カウンターについては現状と手前の2カ所に案内を設け、それぞれ機能分担して運用してまいりたいと考えております。

情報発信・提供機能の強化としては、できるだけ新鮮な情報を配架いたしまして、そこからスマートのQRコードなどでさらに詳しい情報が手に入れられるよう、工夫しながら進めてまいりたいと考えております。また、モニター、サイネージなども設けまして、情報発信を進めてまいりたいと考えております。

現在施工を行っているところですが、やはりできた空間をどう活用していくかがもう一つの大きなポイントとなってこようかと思っております。

そこで、新たなソフト事業として考えているものが4点ほどございます。

1つ目は多様な主体との共催によるワークショップ・セミナーで、もともと6階と地下にセミナーができるスペースを設けておりましたが、これからは一番人が行き交う1階でも開催できるようになりますので、こういったイベントなども実施してまいりたいと考えております。

なお、イベント内容については、前回の委員会で仙台市の地域課題や社会課題をもっと強く打ち出していくことでより一緒に動き出すきっかけができるのではないかというご意見を頂戴したところでございますので、開催に当たりましてはそのあたりも意識しながら、地域の課題と市民の方をつなげる場といったところも配慮しながら実施してまいりたいと考えております。

また、2つ目といたしましては、団体で活動を始め、イベントなどを実施してみたいと考えられている方がチャレンジする場にしていきたいと考えておりますので、サポートセンターがそういった団体を支援していくことも考えております。

また、3つ目ですが、従来からも活用の方法を考えておりましたが、団体によるブースの出展にも使ってまいりたいと考えております。

最後の4つ目は、掲示板などを活用した利用者・スタッフとの日常的な交流の促進でございます。これも前回の委員会でご意見をいただきましたが、センター自体もそうですし、利用者の方とも相互に意見交換などを通して信頼感や安心感を醸成していくことが、これからサポートセンターを使い続けていただく上で非常に大事なポイントと考えております。

スタッフと利用者との双方向のコミュニケーションについて、今後も日常的に顔の見える関係を築き、掲示板などを使った情報交換の場を設けてまいりたいと考えております。

また、フレキシブルな活用ということで、セミナーなどを開催するときには正面のスクリーン、ホワイトボードのほうを向いたレイアウトが可能になりますし、ブース出展やお祭りのようなときにはブースを出した奥に交流スペースのようなものを設けるレイアウトも可能でございます。実施する催しに応じて、レイアウトをチェンジしながら活用を進めてまいりたいと考えております。以上が1階のスペースについてでございます。

続きまして、3階でございます。1階にも情報を置くことにしておりますが、どちらかといえば、新鮮さが大事な情報については1階に配置し、3階については、サポートセンターも丸19年ぐらいやってきておりますので、その中で仙台の市民活動のアーカイブ的な資料や、じっくりと吟味して見ていただくような資料は3階に持つてまいりまして、落ち着いて閲覧をしていただける場所にしたいと考えております。なお、こちらのフロアに関しても掲示板を拡充し、多目的コーナーを設けて個別の相談に対応するとともに、授乳にも対応できるコーナーとする予定にしております。

続きまして、4階でございます。研修室3がもともとございましたが、利用向上のため、段差のあるスペースだったものをフラットなスペースに改修し、足の悪い方向けに少し高さのあるクッションや椅子などを備えて、より活用していただきやすいスペースに改修する予定でございます。

続きまして、5階でございます。こちらは「様々なプロジェクトを生み出すためのミーティングスペース」というコンセプトでつくってまいります。これまでの委員会では壁面の活用もご意見として頂戴しておりましたことから、掲示板の拡充では、壁面やロッカーの壁面なども使うことで掲示板スペースを拡大し、情報発信に活用できるようにしております。

用途に応じたスペース区分については、奥と手前を分けまして、奥の部分ではより落ち着いて打ち合わせができるスペースにし、また手前はレイアウトを変えながら自由に意見交換ができるように、緩やかに性質分けができるスペースにしております。また、壁面を使ったソロワークスペースは、1人の方、仕事帰りに作業したいという方、2人で打ち合せをしたい方などが使えるスペースとして、手前側と奥側に設けております。

また、それぞれのテーブルではパソコン作業などもありますので、電源コンセントがどの席からも使えるようにしております。アイデア出しのときに活用できるホワイトボードなどの備品もお使いいただけるように、必要個数を用意しております。以上、5階でございます。

続きまして、事務用ブースのスペースでございます。もともとの案では5ブースを基本に考えていきたいとご説明をしておりましたけれども、スペースをうまくやりくりすることによりまして、最終的に7ブースをご準備することになりました。こちらもこれまで以上にいい環境になりましたので、今回のサポートセンターの機能強化に合わせて、早いう

ちにご使用いただける団体の募集なども行って、できるだけ空けておくことのないように、募集を行いたいと考えております。

外壁、外側部分については、壁面サインにバックライトを設置することで夜でも視認性があるように改良するほか、ロゴサインを設置し、目線が行くような工夫を行う予定でございます。

また、風除室部分につきましては、ギャラリーコーナーを設けるほか、歩行者の方からぱっと目に入るようなデジタルサイネージを活用いたしまして、外からでも中に目を向けていただけるよう準備をしてまいりたいと考えております。

以上が、完成イメージのご説明でございました。

最後に、機能強化実施後についてご説明させていただきます。

施工は行ってまいりましたが、あとはどのように広報していくかについては、まず皮切りとして考えておりますのが「マチノワ WEEK Vol. 2」という取り組みでございます。こちらにつきましては、昨年度も実施しておりますが、市内の市民活動団体に展示をしていただいたり、セミナーなどの企画をしていただいたり、1週間にわたって行うイベントでございます。さまざまな市民活動団体に集まつていただく機会になりますので、こういった場を活用してリニューアルのPRをしてまいります。

まず、イベント期間中、館内ガイドの時間を設け、新しく変わったスペース・機能についてご説明をしまして、より多くの方に使っていただけるようPRしたいと考えております。

もう一つ、「仙台若者アワード」というイベントがございます。こちらも「マチノワ WEEK」の一つのイベントとして行うものでございます。コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社さんから、社会貢献の一環として若者たちの社会的な活動の支援について何か協力をできないかというお話を仙台市にございまして、今年度から実施することにしたものでございます。具体的には、仙台市内に活動拠点や活動地域を持つ若者団体が行う、社会や地域の課題の解決に寄与する優れた取り組みをしている団体を表彰するものでございます。既にたくさんの団体にエントリーをしていただき、2月24日の最終プレゼンテーションで賞を決めるイベントでございます。今回集まつていただくような若い方々にもサポートセンターを使っていただくことは非常にありがたいと考えておりますので、アワードの中でもサポートセンターの機能強化についてご説明する時間をとって、今後もより使っていただけるようPRをしてまいりたいと考えております。

なお、こちらの「マチノワ WEEK」「仙台若者アワード」につきましても、委員の皆様もぜひご来場いただきたいと考えております。

こちらがPRの皮切りになってまいりますが、さらに今後については、今回の機能強化の中でさまざまな方にご意見を伺う中で、やはりサポートセンターをご存じない方がまだまだいらっしゃることを我々も認識したところです。その中で、例えば地域でご活躍の町内会の皆様や企業の皆様などに対するアプローチも必要になると考えているところです。

前回の委員会の中でも広報紙に載せることに加えて、直接の声掛けの力も大変大きいものと考えております。私どももさまざまな方々と接点を増やしていくアクティビティスタッフとしての意識を持ちながら、センターをより使っていただけるようにさまざまな方々にお声掛けをしながら P R に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

[風見委員長]

ありがとうございました。プロポーザル方式で 11 月下旬にプロポーザルが行われて、臨時休館を行わずに進めてきたということで、工事も大変だったと思います。2 月下旬までで全て完了し、お披露目を兼ねて 2 月 21 日から 27 日まで「マチノワ WEEK Vol. 2」をやるということです。完成像というのは実際見てみないとなかなかわからないところがありますが、今のご説明で、特にプロポーザルにご協力をいただいた大橋副委員長、佐々木委員、何か補足でございますか。特に大丈夫ですか。

では、これについて何かご質問、ご意見等をいただきたいと思います。これは議事ですので、これについてはできる限り意見を出していただいて、今後の運営面で反映できる部分もあるかと思います。何かございますか。庄司委員どうぞ。

[庄司委員]

ここまで来たということで、あとはどのように活用してもらうかという仕掛けづくりを頑張っていくしかないのかなと思ってお話を聞いていました。

1 点、質問です。1 階のスペースでのさまざまなソフト事業の案がありますが、ここで賑わいが起こっていかなければ、5 階のフリースペースとの差別化が難しくなると思います。どういった形で貸し出しを検討されているのかをお聞きしたいです。NPO 等によるブース出展という案も上がっておりますが、みやぎ NPO プラザでも短期ショップのスペースを貸し出しております。サポセンのリニューアル後のこんなに立派な感じではないですが、3 年間などの常設のショップをいきなり始めるのは難しい団体も多いと思いますので、1 日 200 円で 6 日以上という短期ショップをトライアルの場所として活用してもらっています。ショップという響きを聞くと、何か物を売らなければいけないのではないかと思う団体も多いのですが、我々スタッフが各団体に合った提案をしており、ここ数年、短期ショップの利用が増えています。その中に視覚障害者の方の就労支援をされている NPO 法人で、もちろん国家資格を持っていらっしゃる、あんま・マッサージをされている団体の利用者の方がいらしたのですが、1 回 500 円で 15 分のマッサージを行う短期ショップを 1 週間開いたところ、いつも決まったお客様と接することや、新たなお客様とのコミュニケーションをとることで利用者の方も自信をつけられたとお聞きしております。こちらも、この団体さんにはこういった使い方ができるのではないかというスタッフからの提案によって実現しておりました。「使えますよ」と言うだけだとなかなか使ってもらえないで、どう使える

のかをお伝えすることが必要と思っております。

また、我々が宮城県から指定管理を受けておりますみやぎ NPO プラザは、昭和 40 年代初期の建物ですので、日々建物の老朽化と闘いながら NPO 支援を行っております。私たちスタッフが建物を改修することはなかなか難しく、できることは限られますが、自分たちで何ができるだろうと、最低月 1 回はスタッフで話し合いを重ねながら、今みやぎ NPO プラザで皆さんに活用してもらいたいサービスを、本当に小さなことでも繰り返し「こういうことができますよ」「こういうことに使えますよ」とお伝えすることで市民活動の方々に利用していただいている。サポセンのリニューアルについてはうらやましい思いもありますが、サポセンのスタッフの皆さんのがこれからどのように活用してもらうかの仕掛けづくりを頑張っていかれると思いますし、労力はかなりかかると思われるため、大変だと思いますが、同じ仙台市、宮城県で NPO を支援するものとして、これから情報交換などもしていけたらと思っています。

[風見委員長]

ありがとうございます。意見ということでおろしいですか。

[庄司委員]

1 階はどのように貸し出していくのでしょうか。

[風見委員長]

では、スケジュールなど事務局からお願いします。

[事務局（市民協働推進課長）]

ご意見ありがとうございました。私たちも、走りながら考えているところでして、確固たる貸し出し方法はまだイメージし切れていないところはございます。NPO プラザでは短期ショップということで、一定の期間で貸し出しをされているかと思いますが、私どもで今考えておりましたのは、ワンデー使用といいますか、例えばイベントでの活用ですか、イベントの初心者の方向けの 1 日でのご利用というものです。このあたりは運営スタッフや実際にこれからご利用になる皆さんと意見交換しながら、どういった活用の仕方がその団体にとって最良かを考えていかなければいけないと思っております。その中で適切な使い方、利用者の方々にとって一番いい使い方を考えながら進めたいと現段階では考えているところでございます。

[風見委員長]

特にそのあたりは庄司委員からありましたように、物は新しくなりましたけれども、使い方がこれから一番大事だと思います。ほかにご意見ありますか。伊勢委員。

[伊勢委員]

新しいサポートセンターが具体的に見えて、大変すてきになったというのが第一印象です。

利用者側の視点としてお伺いしたいのは、今回大規模な改修が入りまして、実際に利用する場合、利用料金はどうなるのかを教えていただければと思います。今後 1 階を活用する場合や、3~4 階の部屋、ほかの部屋も含めて改修が入ることによって変更するところがありましたら教えていただければと思います。

[事務局（市民協働推進課長）]

利用料金ですが、サポートセンターは仙台市の条例設置の施設ということがあり、利用料金の変更や追加となると、条例の改正が必要です。現在、この改修によって、部屋の料金が変わることや、1 階スペースに料金がかかるということは考えてございません。1 階につきましては、今後専用利用をどうしていくかの議論はありますけれども、基本的には交流スペースと位置づけています。

[伊勢委員]

ありがとうございます。

[風見委員長]

利用者は気になるところですね。きれいになった分、料金が上がるのではないかと思われる市民の方がいらっしゃるかもしれないので、しっかりと情報を開示しないといけないですね。ほかに何かございますか。どうぞ、其田委員。

[其田委員]

私も利用者の視点で質問させていただきます。1 階でスタッフが配置される窓口は、従来どおりの出入り口を入って右側に並ぶ受付カウンターと、左側の学都仙台コンソーシアムが 7 階に移動した跡のスペースを使った新しい総合案内ということですので、2 カ所と思っています。そうなると 2 カ所の受付機能の差別化を図らなければならないと思っております。従来の利用者は、出入り口を入ったらすぐに右側に行く可能性がありますし、新規の方もいきなり左に目が行かない可能性もあります。そのように考えたとき、左側の総合案内に人を配置する必要はない判断し、人型ロボットを置くなど、いわゆる機械的なもので総合案内を行うこともできるのではないかと思います。本日、サポートセンターの機能強化についての議題にはありませんが、サポートセンターで働いている方々が、やりがいや生きがいをさらに見出すような教育・研修などの人材育成を行うことが、これまでの委員会で議論してきた中で一番重要なところと考えています。そういう動きにつながるよ

う、スタッフの再配置の検討も考えなくてはならないと思っておりまして、これから期待も込めてコメントさせていただきました。以上です。

[風見委員長]

事務局、これについては何かありますか。

[事務局（市民協働推進課長）]

ご意見ありがとうございました。まさに其田委員がおっしゃるように、これからサポートセンターを協働の場としていくためには、スタッフのノウハウや経験値の蓄積は大変大事なことであると思っております。人材の育成にも力を注げるよう、少し簡素にできる部分は簡素にし、中長期的にも進められるよう考えているところです。

冒頭、ご質問のありました受付の機能分化につきまして現状考えているところでは、すでにご利用されている方は、どうしても今までどおり受付に行ってしまうことがございますので、総合案内に配置されているスタッフからお声かけし、動線のご案内をさせていただきたいと考えております。また、総合案内ではコンシェルジュ的な役割を担いつつ、ファーストカウンター的に、鍵の受け渡しや、座らずに済むような簡単なご案内を行うなどの機能も考えております。早く済む作業やご案内が必要なものは手前で行い、現金収受や予約などの少し時間がかかるものは後ろの受付カウンターで行うというように、機能を分化しながら進めてまいりたいと考えております。当面はさまざまな方とコミュニケーションをとる中で、カウンター業務の運用をスタッフ間で共有しながら進めていきたいと考えております。

[風見委員長]

機能配分ということでは、総合案内は全館、受付カウンターは 1 階という理解でいいですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

そういうことでございます。

[風見委員長]

すると、総合案内に視点的に集まるよう、中が見えなくならない程度の半透明もしくは木の枠でできた図書館にあるような開架式のラックのようなものを手前に置くことで領域を分けて、最初に総合案内が全館の案内という印象にするということもあるかもしれませんね。其田委員もおっしゃったように、もしくはデジタルなものかもしれません。今の意見はとても重要だと思います。1 階と総合案内の使い方についての意見があつたことを踏まえて、今後議論していただきたいと思います。

ほかにございますか。小野委員どうぞ。

[小野委員]

私のオフィスがちょうどサポセンの裏なものですから、工事が始まった頃からどんな感じになるのかと、わくわくしながら前を通っていました。ハード面では大変すばらしい立派な施設に生まれ変わり、デジタルサイネージや掲示板といったものも増えて、コミュニケーションツールとして情報発信にも活用されるとのこと。デジタルサイネージの中で流す情報を、今まで興味がなかったような人たちも「おおっ」と足を止めるようなキャッチャーな中身にすることが必要となるでしょうし、それらを誰がどのように制作していくのかがこれから課題という気がします。そういったところをさらに工夫することによって、より多くの新しい方に足を踏み入れていただけるようになると思います。今回、こけら落としとして行われる「マチノワ WEEK」はたいへん充実した内容のようですが、今まで入ってこなかった人に、こういうイベントをやっているよということを伝えるための情報発信の手段として何か新たな試みを検討されているのか、教えていただければと思います。

[風見委員長]

事務局、どうぞ。

[事務局（市民協働推進課長）]

今回の機能強化は、新しくサポートセンターを使っていただける方を増やして、その中で協働を進めていこうということで、走りながら考えているところでございますが、例えばデジタルサイネージであれば、細かい文字情報を流す性質のものではなく、もう少しキャッチャーな、まさに小野委員がおっしゃるようにビジュアルでどう見せるかという工夫も今後していくかなければならないと考えております。「マチノワ WEEK」に人を呼び寄せる工夫という点では、風除室から出て外側にアナログ的なものも含めてご案内を設置し、街行く方にも気軽に立ち寄っていただけるような工夫を考えてまいりたいと思います。

[風見委員長]

「マチノワ WEEK」のような機能強化を告知する機会となるイベントも、連続してやることによって意味があると思いますから、今回のサポセンの改造と相まつたイベントの企画もあるのではないかと思う。新しい部分をどう見ていただくかもあると思います。

ほかにございますか。もしないようでしたら、センター長からも今のご意見を聞いて、何かご発言する内容があればお願ひします。

[市民活動サポートセンターセンター長]

皆さん、貴重なご意見をありがとうございます。実は今日、什器が入って資料のイメー

ジ図にとても近い感じになりました。機能強化とは別に、外壁のタイル補修工事が入っているので中が見えづらくなっていますが、ぜひのぞいていただければ雰囲気を感じていただけるかと思います。実際に内装が変わってみると、意外と広いイベントスペースとして使える印象がありまして、これを活用しながらさまざまな発信をしていきたいと思っております。

庄司委員からありました、利用者にどのように伝えるかという点では、1階の機能はもちろんですが、5階の新しくなった交流サロンは、アクティブミーティングスペースとして、今まで机同士をつけずにご利用いただきましたが、つけても良くなり、よりクリエイティブな発想の場として使っていただけるようになりました。これをどのようにご案内できるかを考えていきたいと思います。この交流サロンはすでに使い始めていただいていますが、皆さん使い慣れた枠の中に入っている印象です。やはり新しくなりましたので、「マチノワ WEEK」の中で新しい使い方を見せていくことで、こういうふうになったのか、使ってみたいなど感じていただけるようにしていきたいと思います。

また、外壁工事中は外に向けた発信がなかなかできませんでしたが、足場が外れれば、外からも見えやすくなりますので、外向けの発信をしていこうと思っています。

[風見委員長]

ありがとうございました。工事で運営も大変だと思いますが、もう少し刷新されると思います。

今お聞きしていると、1階ががらっと洗練された場所になることによって、例えばメディアテークの1階のような、小さい温かみのあるイベントスペースとして、どんな使い方ができるのかがとても大事だと思います。

5階については、最近、大学でもアクティブラーニングとよく言っていますし、アクティブミーティングと今おっしゃっていましたが、この使い方をどのように見せるかが、1階と5階の個性がうまく生きればずいぶん機能強化された印象になるのではないでしょうか。ただ家具が置いてあるだけでは改装された印象だけですから、ぜひそこに動きが見えるように頑張っていただければと思います。

[風見委員長]

どうぞ、伊勢委員。

[伊勢委員]

今、太田センター長のお話の中にありました5階の利用ですけれども、アクティブミーティングスペースで、これからは机をつけられるようになるというお話をありました。そうなると懸念されることもいろいろあると思います。今までではミーティングをするときに人数が多いときは部屋を借りるルールがあったかと思います。それが机をつけてミーティ

ングができるようになると、ある程度多い人数でも 5 階を利用できるようになると思います。そうなると、議論が活発になったときには結構賑やかになってしまうのではということが一つの懸念です。

また、スタンダードミーティングスペースとアクティブミーティングスペースの違いや、利用のルールはどのようにお考えか教えていただいてもよろしいでしょうか。

[風見委員長]

では、再びセンター長。

[市民活動サポートセンターセンター長]

スタンダードミーティングスペースには、6 席のテーブルが 4 つあり、基本的には動かさずにご利用いただきますが、ロールカーテンなどで仕切ることができます。半個室ようになるので、アクティブミーティングスペースの声を気にせずに、落ち着いてご利用いただけると考えています。やはり利用者の方々と話をすると、机をつけて使いたいという方もいれば、賑やかなグループとはスペースを分けてほしいという声もありました。施工業者から提案された内容ですと両方が実現可能であったので、私たちとしても利用者の声に配慮できると思いました。ただ、自由に机を動かせるとは言え、最大 6 つをつけてしまうと部屋のようになってしまいますので、それはご遠慮いただき、2 つ程度をつけていただくことを考えています。また、レイアウトを自由にして、もっと外が見えるところでやりたいという場合には、場所を動かしていただけるようにしたいと思います。ホワイトボードも備え付けにせず、自分たちで近くに持ってきて設置する形をとろうと思っていますので、使い方をそれぞれに工夫をしていただければ、クリエイティブな作業に向くスペースになると思っています。今のところ、利用者の方も使い慣れていないので、スタンダードミーティングスペースに人が集中したり、ホワイトボードは備え付けのほうが便利というご意見もありますが、新たにモニターも設置しましたので、徐々に新しいミーティングの仕方が出てくると思います。

[風見委員長]

ほかに何かございますか。特になれば、これからの方のご意見を大体いただいたと思いますので、次の報告事項に行きたいと思います。

事務局はこれまでの意見を踏まえて、いかに使っていただける施設にするか、さらに検討していただければと思います。

3 報告

(1) 協働の手引き・事例集について

[風見委員長]

続きまして、報告事項にまいりたいと思います。まず、協働の手引き・事例集の説明を事務局からお願ひします。

[事務局（市民協働推進課長）]

それでは、協働の手引き・事例集のご報告をさせていただきます。

こちらにつきましては、今、事例集・手引きを並行で制作中です。今日は内容のあらましをご説明させていただきます。

まず、事例集でございます。この目次案につきましては委員会でご報告をしていたところです。特にこの間、進捗があったのは、第3章のマルチパートナーシップの時代へという部分です。これは、若手の活動実践者の座談会を収録しようという構想が当初ございましたが、アクションチームで議論した際に、せっかくであれば公開で開催することがいいのではないかということで、昨年11月10日に公開座談会を実施させていただきました。

内容については、本日この委員会にご出席の大橋副委員長、其田委員、浜委員にもこの座談会にご出席をいただき、司会として佐々木委員に進行をしていただいたところです。

聴衆がいる中で進めていただき、内容といたしましては、テーマの一つがネットワークの構築について、もう一つは、持続的な協働のまちづくりの進め方について、この大きな2つの柱について、それぞれの参加者のご経験、活動などから参考になる話をしていただきました。この内容を取りまとめて第3章に収録をさせていただきたいと考えております。現在、作業をしております。以上が事例集についての進捗です。

次に、手引きでございます。事例集は具体的な市内の活動事例を紹介したものですが、その中から役立つ協働の進め方のエッセンスをまとめまして、目次案にあるとおり、「協働を知る」「協働を始める」ということで、具体的なサイクルに従って進め方のノウハウを記載するものでございます。もともと仙台市でつくっておりました「仙台協働本（せんだい・こらぼん）」はどちらかというと行政と団体との協働にフォーカスをしておりましたが、これからはマルチパートナーシップということで、団体と団体の協働、違った団体との一緒に取り組みもございますので、そのあたりについてこれから市内でさまざまな団体が一緒に取り組みを進めていく上で必要となるノウハウをまとめているところです。

事例集・手引きですが、年度末を目途に仕上げ、同時刊行したいと考えております。完成したら委員の皆様にも送付させていただいて、ぜひご覧いただければと考えております。

また、こういった事例集・手引きをPRするような、例えば映像やウェブなどの作成も年度末までにつくってまいりたいと考えております。今構成を検討中でございます。こちらも含めまして、今年度の成果としてリリースをしていければと考えております。説明

は以上です。

[風見委員長]

公開座談会については佐々木委員から報告はございますか。

[佐々木委員]

冊子をつくる中で、未来につなげるためにはどのように見せたらいいかと考え、制作側だけが活動者にヒアリングするよりも一般の方にも生の声を聞いていただいたほうがいいのではないかということになりました。出演者が8人と多かったのですが、実際に最前線で活動されている20代、30代の若手にお話ししていただいたことで、この冊子が完成で終わりではなくて、次につなげるためのメッセージを示すことができ、非常によかったですと考えております。

[風見委員長]

委員の方々にも出ていただいて、いいイベントだったと聞いております。全体の手引き・事例集等についてご意見、ご質問あればお願いします。

[大橋副委員長]

事例集の発行部数ですが、2,000部というのが果たして十分なのかどうかが少し気になります。紙で印刷すれば当然コストがかかってしまいます、例えばウェブでいつでも見られるようにするなどの対応をしていただければ、私たちも積極的に広報しやすいと思いましたので、ご検討いただければと思います。

[事務局（市民協働推進課長）]

ご意見ありがとうございます。予算の中ではこれぐらいの印刷部数になりますが、私もといたしましてもやはり多くの方に手にとって見ていただくことに意義があると思いますので、今、大橋副委員長からもお話しがありましたとおり、ウェブに掲載して見ていただくような工夫といったことも合わせて、広く見ていただけるようにしていきたいと考えております。

[風見委員長]

ありがとうございます。ほかには何かございますか。浜委員、どうですか。座談会にご参加されて何か感想などあればお願いします。

[浜委員]

座談会では、私が最初に立ちどまつた「協働とは」という言葉の意味について、協働を

自然に実践されている方々から改めて考えてみようといった意見も出ました。改めて、協働というものがもっと広く市民にわかるような形で広げられればいいと、この座談会を感じました。

〔風見委員長〕

この議論は進んでいるようで、いつも原点に立ち返る問題ですので、それを一番感じた会になったということでしょうか。ほかに何かございますか。どうぞ伊勢委員。

〔伊勢委員〕

手引きと事例集ですけれども、2,000部をどのような形で配布される予定か教えていただいてもよろしいでしょうか。

〔事務局（市民協働推進課長）〕

まずは多くの方に閲覧していただけるようにということで、市民活動サポートセンターや市民センターなど、仙台市内の各施設に配置したいと思っております。また、各団体にも手にとって見ていただけるよう配布したいと考えており、ご要望のあった団体にはできる限り配布していきたいと考えております。

〔風見委員長〕

よろしいですか。どうぞ。

〔庄司委員〕

11月10日に行われた公開座談会は大体何名ぐらいの方がご参加されて、どんな層だったのか、参加者からの反応などがあれば教えていただければと思います。

〔事務局（市民協働推進課長）〕

聴衆については大体20名程度ございました。広報が直前になってしまったものですから、多くの方のご参加とはなりませんでしたが、佐々木委員に周知をしていただいた学生さんにご参加いただいたり、ご出演の皆さんとのSNSでの周知を見て来た方がいらっしゃったりと、学生や社会人の方に来ていただきました。会場からは二、三の質問をいただいて、自分が行っている活動が果たして協働なのかなど、協働に対する考え方について出演者と聴衆の皆さんとディスカッションしながら進められたイベントと考えております。

〔風見委員長〕

少ない人数でもいろいろな意見やフィードバックがあれば、それをしっかりとすくい上げることが大事だと思います。平日午前中の開催ということで、どういう層を対象に考えた

かもあると思いますが、いろいろな客層を選び取るためには、いろいろな時間帯でやるほうがいいと思います。今後こういう場を増やしていくかなければならないということではないでしょうか。ほかに何かありますか。

[大橋副委員長]

協働の手引きは、作成した後にどう活用するかが大事だと考えております。その活用について現段階で考えていらっしゃることがあればぜひ教えていただければと思います。

[事務局（市民協働推進課長）]

サポートセンターの機能強化と事例集・手引きが相乗効果を上げて、仙台の協働に結びついていけばと考えますので、これから2,000部をどう使うか工夫が必要ではありますが、各地域団体のイベントや企業のCSRのイベント、それにNPOのイベントなどがさまざまな場所で行われていますので、我々もできるだけそういう場で紹介する機会をつくり、可能であれば手渡ししていくなど、広く冊子があることを知っていただき、サポートセンターの機能強化も含めてPRしていかなければと考えております。また、さまざまな団体の会合の席に我々やセンター職員が出ることもありますので、そういった席でもできるだけPRをしながら紹介を進めていかなければと考えております。

[大橋副委員長]

ありがとうございます。これは一意見としてお聞きいただければと思いますが、協働まちづくり推進助成制度などの場もあると思いますので、申請する団体のサポートのツールとして使えるといいとも思っておりました。ぜひご検討いただければと思います。

[事務局（市民協働推進課長）]

ありがとうございます。

[風見委員長]

はい、どうぞ。

[伊勢委員]

手引きですが、目次案として第1章、第2章を出していただいて、具体的に中身を見ていないので何とも申し上げられないのですが、何のための協働なのかといったところで、やはり目的があって協働をするのであって、今の目次案ですと、いきなり協働を始めるPDCAサイクルになっているかと思います。やはり協働するためには、協働するそれぞれの団体や関係機関が何のためにやるのかを最初に確認し、共通認識を持って始めるのがベストだと思います。そのあたりはしっかりと強調していただけるとありがたいと思っています。

ます。活動しているとどうしても目的と手段がごちゃごちゃになってしまうことが多々起りますので、目的はきちんと共通認識を持ってやっていければいいと意見を述べさせていただきます。

[風見委員長]

今の点について、よろしいですか、事務局。

[事務局（市民協働推進課長）]

協働に関しては、やはり共通のミッションを持って取り組んでいくこともありますし、先ほどの座談会の中でもパネラーの方から、協働は手段として進めるものであるから、その意識を合わせることが協働にとっては必要だというお話をございましたので、その辺りをしっかりと念頭に置いていただけるような内容にしていきたいと考えております。

[風見委員長]

ありがとうございます。いかがでしょうか。大体よろしいですか。

(2) 協働のまちづくり推進助成事業について

[風見委員長]

それでは、報告事項の2番目、協働まちづくり推進助成事業について報告願います。

[事務局（市民協働推進課長）]

それでは、仙台市協働まちづくり推進助成事業の次年度、平成30年度事業の募集についてご説明させていただきます。こちらの助成事業につきましては本年度から実施いたしました新しい助成事業でございまして、狙いといたしましては、協働というタイトルがついておりますとおり、単独の団体ではなかなか取り組みが難しかったような地域課題に対して地域の団体が協働で取り組み、新たな機能や価値を創出するものに対して助成を行う事業です。

今年度の助成事業は4事業ございまして、地域の資源、貞山運河を活用した取り組み、地域交通を目指すもの、スポーツボランティアの拡大、地域の高齢者、子供、学生の交流の場の創出を目指すというものが事業として採択されておりました。こういった取り組みを経まして、30年度もより新しい取り組みもご提案できるよう、募集をかけたいと考えております。

募集につきましては、来週から受け付けを開始いたします。今年度から少し変更させた部分が2点ほどございます。1つは助成団体を増やすよう、募集件数を5件程度に増やします。昨年度は3件程度の募集でしたが、来週から始まる市議会にもう少し多い団体に助成できるように予算を提案する予定でございます。

対象事業・団体につきましては、2つ以上の団体が協働により実施すること、それにより新たな機能・価値を創出するものとし、この点は助成事業の大事なポイントとしていきたいところです。

助成内容でございますが、事業期間は基本的に単年度ということで、平成30年4月から31年3月までですが、今年度実施してみて、複数の団体が連携して事業を進めるときには助走期間が必要であること、例えばそれぞれの団体の総会など意思決定の場面、時期が違うということでスタートが切れないプロジェクトがあることがわかりましたので、審査は年度ごとに、毎年度行いますが、最長2年間までという期間を設けさせていただいたところです。助成団体を増やすことと、期間を複数年に設定したという点がこれまでよりも一步進めたところです。

スケジュールですが、年度末に審査を行いまして、4月上旬からはそれぞれの事業がスタートできるように進めてまいりたいと考えております。

[風見委員長]

この事業は今のお話にあったように協働の一つの形をつくるためのモデルにならなければいけないということもありますので、複数の団体の協働の成果の分析も必要かもしれません。質問やご意見があれば、どうぞ。

[庄司委員]

平成29年度の助成事業の中間報告会をされると最初に計画されていたかと思いますが、そちらはどうなったのかということと、成果報告会はいつぐらいに開催されるのかということ、そして今回の助成の特色として、コンサルティングとして外部の専門家が入ったことがどのように機能したのか、今の時点でどのような成果があったとお考えになっていらっしゃるのかをお聞きしたいです。

[風見委員長]

事務局、どうぞ。

[事務局（市民協働推進課長）]

まず、中間報告会と成果報告会ですが、庄司委員がご指摘のとおり、当初は中間報告会を実施してから成果報告会ということで考えておりましたが、今回、4事業を採択しておりますが、事業によっては進捗度に差が出てきてしまった部分がございまして、なかなか中間報告をする状態まで行かないような取り組みもございました。そのため、中間報告会については残念ながら見送りまして、最後の成果報告会でそういったところも含めて報告を行う予定です。3月で終了する事業ですので、新年度の早い時期に成果報告会を開催したいと思っております。本来であれば、中間報告会で出た課題なども含めて新年度の事業につ

なげていければと考えておりましたが、今年度、実際やってみて、なかなか難しい事業もございまして、そのような進め方になっております。

もう一つ、コンサルティングの点ですが、今申し上げましたとおり、中間報告会までは難しい状況が生じた事業について、一つは市内でサポートをされている団体にサポートチームとして伴走していただいて、地域に深く入ってサポートしていただきました。そのほか、プロジェクトによっては外部の研究者の方もお招きして勉強会を開催したり、地域のアンケート調査にご協力いただいたり、外部の力、専門家の力を借りて進めた事業もございます。そのため、やはり協働で進めることの難しさには、事業をうまく組み立てていく時間的な難しさと合わせて、どうマネジメントしていくかという難しさもございまして、そういったときにいろいろなノウハウをお持ちの方、外部の専門家の方の力を借りるのが非常に大事ということも実感したところです。

[庄司委員]

ありがとうございます。今年度の募集に関して、先ほどお話をあったように、1団体だけではなく複数の団体が協働して何か事業を行うことは、事業計画を立てるだけでも合意形成をしながら進める必要があり、かなり時間がかかると思います。募集期間についても、この期間でよりよい企画が出てくるのかということを考慮しますと、助成事業の周知、広報にも力を入れていただければと思います。

みやぎNPOプラザでは、みやぎNPO情報ネットというウェブサイトを運営しております。助成金の情報も、全国のものから地方のものまで幅広く広報ツールとして使っていただけております。今回委員会の資料として募集要項をいただきましたが、みやぎNPO情報ネットにはいただいていなかったので、みやぎNPOプラザでも募集要項等を設置しますので、ぜひ広報に使っていただければと思っております。

[事務局（市民協働推進課長）]

ありがとうございました。周知に至らない点があり、大変申し訳ございませんでした。さまざまな皆様の目に止るように、広報は引き続き努力をしていきたいと思っておりますので、改めて情報をお出しさせていただければと思います。

また、この募集期間で皆さんに事業を組んでいただけるのかといったところは私たちも課題認識としてございます。こういった助成事業が毎年度定期的に募集できるようになれば、年度末に募集があることを前提に、年度内の早い段階からお知らせをして地域のさまざまな団体に事業を考えていただく、またそれに対して我々がサポートをさせていただけすると考えています。そういうことを踏まえて、地域でやれることはこういうことだからと自信を持って助成事業に申し込んでいただくような流れを今後つくっていく必要性について、私たちとしても課題認識として持っているところでございます。

[風見委員長]

伊勢委員、どうぞ。

[伊勢委員]

協働まちづくり推進助成事業については、協働する難しさを感じているということですが、サポセンの機能が強化され、申請団体を支援できるようになるといいと思います。協働を行おうとする団体が応募するとなると、つながっている団体同士以外はなかなか応募ができない状況で、すでにネットワークがあるところが今は申請できている状況なのかと思います。そこで、例えば「マチノワ WEEK」やサポセンの機能強化で新しいサポセンをお披露目する際に、相談業務や受付業務の中で協働をやりたいという団体の声を聞いていただいて、助成事業への申請に進めるような支援体制をとっていただくことも考えられるのではないかでしょうか。また、やはり1年2年で助成が終わってしまうと、目的にある仙台市の持続的な発展につながる取り組みが生み出されていくための土壌を本当につくることにつなげられるかと考えています。NPOを運営していると、1年2年で事業を軌道に乗せるのはとても難しいことだと思いますので、もう少し長い目で見ていただいてもいい感じております。

[風見委員長]

私も申し上げようと思ったことを伊勢委員に言っていただきましたが、これは少し見直さないといけないのではないかでしょうか。今年度の中間報告ができない状況が作られているのは制度設計上問題があると思います。地域団体・企業・NPO、多様な主体がつながって事業を実施して、それに適切な助成金やコンサルティングが行われて、新しい機能・価値が生まれるということですが、実際には理想と現実があると思います。1年でそうしたギャップを埋めるのは難しいので、例えば、途中の審査によっては助成がなくなることも伝えたりで3年計画を出していただくなど、決めた通りに制度を進めるのではなく、どんどん改善しなければいけないと思いました。今、伊勢委員がおっしゃったとおり、サポセンの機能も含めて誘導型でやっていくなど、制度をどう推進していくかについて踏み込む一つのきっかけにもなると思います。この事業に改良を加えていくことが協働の実践につながるのではないかと思いました。おそらく、皆さんも同じような思いがあるのではないかと思います。中間報告と成果報告から、制度がどう機能したのかを検証することは、政策評価としてとても重要になると思います。いろいろトライアルして改善すればいいと思います。これは来年度へ持ち越しの議案になるかもしれません、この事業を有効にするための重要なポイントだと捉えておりますので、ぜひ強化したいと思います。

[島田委員]

私も2年というのは少し短いと思います。区のまちづくり活動助成事業は3年ですが、3年ですと大体が軌道に乗ってきます。一方、協働まちづくり推進助成事業の場合は、特に2団体以上ということですので、打ち合わせをはじめ、いろいろなところで時間がかかりますし、2年で成果を出すのは厳しいと考えます。29年度は9団体中の4団体が採用されていますが、次の30年度は多分いろいろな団体からの申し込みがあるのではないかでしょうか。その中で今年度の4団体もまた申し込む可能性があると思われます。そういった場合、5件程度ですと、審査の過程で不採用になる可能性もありますし、少しもったいないと感じます。ですから、5件程度でもよろしいのですが、もっと長い目でしっかりと事業を継続できる方法をとってもらえないかと思っております。

[風見委員長]

ありがとうございます。大橋副委員長、どうぞ。

[大橋副委員長]

今の流れに関連して、一つのアイデアですが、ぱっと見て、この申請要件を見るとやはりすごくハードルが高いような印象があります。最初からしっかりと連携していく、何ができるかがある程度固まっているとなかなか申請しにくい印象がありました。例えば、初年度は要件を下げ、軽い連携でも受け付けるかわりに助成額も下げ、できるだけ多くの種を発掘して、その中からふるいにかけていくことで、長期調整につなげていく方法もいいのではないかと話を聞いていて感じました。

[風見委員長]

ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。どうぞ。

[小野委員]

いろいろな立場の方が協働して進めることは時間がかかるという理論もわかりますが、企業的な発想からしますと、計画・申請・認可を経て、成果が上がるまでに3年といった時点で、とても遅いと思ってしまいます。企業の論理を、すぐにこういった活動に持ち込むのは大変難しいことは承知しております。しかしながら、せっかく企業も含めた多様な連携ですし、事前の計画の段階で計画性や事業化プランニングに関するコンサルも提供できる体制なわけですから、さまざまな企業の経験や強みを取り入れて、活動にいかしていくことによってこそ、本格的に協働と言えるのではないかと思います。

この応募要項を見ますと、企業はなかなか参加しにくいというのが正直なところです。企業が主体ではなかなか申請できない内容になっていますし、企業が良きパートナーとしてどんなふうに社会活動のお役に立てるのかが疑問なところもあります。また、先ほど

も皆さんからご意見がありましたように、助成の条件として中間報告や成果報告を実施することが義務付けられている以上は、それが形になっていてもいなくても、完成度に関わらずやらなくてはいけないものだと思います。税金を使って助成をしている責任もありますので、形になるように随時サポートをしていく必要もあると思いますし、報告会として発表する形式ではなくても、レポートでもいいので一旦進捗状況を整理することによって、次のステップへの客観的なアドバイスをいただける機会にもなると思います。ぜひ計画したもののはきちんと実行していただきたいと思います。

[風見委員長]

ありがとうございます。政策では情報開示とP D C Aをしっかり回すことが大事だと思いますので、よろしくお願ひします。ほかにございますか。

もしないようでしたら、今回も大変活発なご議論いただきましたので、よろしければここで報告事項を終わりたいと思いますが、よろしいですか。ありがとうございました。

4 その他

[風見委員長]

その他にございますか。委員の方から特にないですか。事務局は何かありますか。

[事務局（市民協働推進課長）]

特にございません。

[風見委員長]

ありがとうございました。以上で協議事項、報告事項を全て終了です。今日が本年度の最後の委員会になります。また、委員会の改組の時期でもあり、入れ替わりもあるうかと思います。今期はいろいろなことをやり遂げましたが、やはりやり遂げたところから課題が出ることは健全だと思いますので、最後にまたいろいろな宿題が出たことはとてもいいことだと思います。せっかくの機会ですから、任期中の思いでも結構ですし、次期に向けての提言や宿題でも結構ですので、委員の皆さんから一言ずついただきたいと思います。

[島田委員]

協働による活動ということで、今いろいろな活動をしたいという意欲は皆にあると思うんです。ただ、区のまちづくりでも毎年10件以上の申請がありますが、その人たちを見ると、やりたいけどお金がないというケースが多いんですね。それで、やっぱり一番必要となるのはお金と思っています。先ほど小野委員からありました、企業と違って、私たち地域でやっているところはお金がないので、まずは軌道に乗るまでの援助、そして人の援助というのが必要なのかなと思っています。

[風見委員長]

ありがとうございます。

[佐々木委員]

私は、去年初めて入りまして、2年間はまさに条例ができて実際に動かすという貴重な時期に委員になれたのではないかと思っております。委員会だけではなく、アクションチームという形でたくさんの会議を重ねて、時には手を動かしたことも貴重な機会になったと思います。活動を通してハードとソフト、あるいはお金という舞台装置はセットされました。今度はそれをいかに動かすかということですが、大事なのは仕組みと仕掛けをきちんとつくっていくことで、創発をしていくこうと決めているわけですから、アドバイザーが「こうだ」と言うのではなくて、今のマネジメントのあり方を少し見直して、ワークショップの進め方やみんなを巻き込む方法などについても改めて原点に戻って考え、そういう仕組みや仕掛けをきちんと動かすことによってこの3点セットが機能すると思っています。

2年間、ありがとうございました。

[小野委員]

この委員会を2期務めさせていただきましたが、当初から協働における企業の関わり方の難しさはすごく感じておりました。この2期の間に企業側にも協働の考え方がどんどん入ってきてているとは思いますが、実態としては企業側のスタンスはほとんど変わっていないうな気がします。それはおそらく、震災直後に見られた企業が地域貢献・社会貢献しなければといった空気から、今は経営最優先に変わってきたこともあると思います。そのような中で協働をどのように実践し、活動として定着させていくのかについては、企業側にももっと働きかけていかないと、NPO、地域団体の皆さんがどんなに頑張って情報をつないでいただいても、企業側の意識が変わらないと情報を受け取ることができないと思います。私も企業の中で微力ながら働きかけをしていますが、従来に比べかなり反応が鈍くなっているのが実感です。引き続き私も会社の中では頑張っていきたいと思いますので、ぜひ行政でも、企業への啓発を継続していただけますよう、よろしくお願ひいたします。

[伊勢委員]

2年間ありがとうございました。私事ですが、本日、石巻で学校と企業をつなぎ、そして学校の授業として大変すばらしいものづくりの体験をさせていただいたところです。県の全面委託事業ということで、学校側も企業側も負担なく、協働で事業をやってきました。

協働を考えたときに、我々の団体も私自身もそうですけれども、やはり間をつなぐ役割の人たちをどう育てていくかは本当に喫緊の課題だと思っています。今全ての分野でつなぎ役が必要だと言われています。協働まちづくりを進めるためのつなぎ役、コーディネー

ターをいかに育てていくのかをサポセンの方たちに全面的に委ねるのではなく、いろいろな地域の中で、しっかりと目的意識を持ち、ノウハウ、スキル、ネットワークを持って、この人なら大丈夫と信頼される「まちづくりコーディネーター」を育てていく必要があると感じています。施策をいろいろ考えられるとは思いますが、やはり仙台市の目指すまちづくりと人づくりを合わせて進めていただけすると、一市民としても一利用者としてもありがたいと思っております。ありがとうございました。

[庄司委員]

2年間、貴重な体験をさせていただきましてありがとうございました。協働って何だろうなど毎回ここに来ると頭を抱えていました。仙台市の一市民として、仙台市から市民へ「協働しませんか」「一緒にやりましょう」「やってください」と声がけをされるのであれば、やはりそれは公益的な活動であってほしいと思っております。何が公益なのか、今仙台市にどういった社会課題があって、それをどうやってみんなで解決していくらいいのかを考えるためにには、市民活動性という理解をもっと深めていく必要があると思っております。委員会の最初のころに、NPOや市民活動はハードルが高いから、もっと広くいろいろな人に関わってほしいという意見があったと思います。ハードルが高くても、本当に必要なことや、誰かを助け、誰かが助かるかもしれないということであれば、やはり人は動くと思いますので、引き続き市民活動性・公益性というものを伝えていかなければならぬと、この2年間で改めて思いました。ありがとうございました。

[其田委員]

委員長から改めて2年間という言葉を聞いて、もう2年と思いました。皆様には大変お世話になりました、ありがとうございました。

私たちが2年間関わってきたこの委員会の活動が仙台市民の皆さんに広くPR・浸透する視点を引き続き強く持ちたいと考えております。

この2年間、貴重な体験をさせていただきましたが、仙台市協働まちづくりのかたちがまだまだ途上であり、更なる発展となることを願って、私のコメントを終わりたいと思います。ありがとうございました。

[浜委員]

皆さん、2年間本当にありがとうございました。私が委員になって一番変わったのが自分自身です。私は忙しいことを理由に、実は町内のイベントやいろいろなことを避けて通ってきた部分がありました。協働を考えたときに、最初は難しく考えていましたが、本当に身の回りの小さなこと、町内や学校のいろいろな方の意見に耳を傾けるところから始めて、今では学校の行事も積極的に参加するようになり、町内のお年寄りや子供たちとも積極的に話すようになり、地域の課題が一体何なのかが何となくですが見えてきたような状況で

す。ただ、私が「協働ってこうなんだよ」と忙しい主婦の方に話しても「えっ」という雰囲気があるのは、この2年間変わっていません。どうやって変えていけばいいのかとずっと考えていますが、実践するその人自身が協働でまちが変わったことや協働を楽しんでいることを発信していかなければ巻き込んでいけないと思っています。私ももう少しレベルアップして協働の活動をしていきたいと思いますし、協働というのはこんなに楽しいんだよということを発信する人をもっと増やしていきたいと思っています。協働は人ごとではなく自分事だということが2年間でわかりました。

[大橋副委員長]

私は前の別の委員会の名前のときから4年間関わらせていただきました。お世話になり、どうもありがとうございました。

私自身は実践者という立場なので、この委員会のメンバーでなくなつても変わらず、もっと良い市民の参画の場をつくっていくためにはどうしたらいいのかということを日々考えながら、これからも活動していきたいと思っています。

この委員会が始まるときに、副委員長の役割を拝命したのはその前が皆勤賞だったからということを言ったのを今思い出しましたが、第2期も皆勤賞で、全部参加できたのが私なりの自負かなと思っております。引き続きよろしくお願ひいたします。

[風見委員長]

委員長としてまた2年務めさせていただいて、今までのやりかけた仕事をある程度は完成できたと思います。ただ、先ほどありましたように、例えばアクションチームなどの分科会があり、こんなに人使いの荒い委員会がほかにあるのかわかりませんが、参加いただいた方は、よき経験として捉えていただき、大変なものに当たってしまったなという思い出にしていただければと思います。またこの委員会で一緒にしたことが、これから仙台市の協働まちづくりの一番大きなDNAをつなげることになりますから、今後もよろしくお願いしたいと思います。

先ほどの企業の視点もありましたし、いろいろなご意見を聞いていて思ったのは、まだまだやりかけたことが多く、少しずつ変わってきたという印象がありますが、先ほど浜委員から言っていただいたように、我々自身が一番変わってきているのではないかと思いますし、事務局もそうではないかと思います。まずこのメンバーが大きく変化することが確実な変化であって、それを世の中につなげていくことが確実な社会変化につながるのではないかなと思いました。

また、先ほどありました楽しくやるというのもとても重要です。昨年、デンマークに参りまして、デンマークの民主主義を拝見してきたときに思ったのは、彼らが一番大事にしているのは楽しくやっているかということでした。投票率80%～90%の国が進める民主主義の徹底というのは、協働のあり方に関連すると思いました。たまたま先ほど浜委員が自

分事とおっしゃっていましたが、社会がどうなるかは他人事ではなく自分事だという考えがデンマークの民主主義教育にも徹底されています。ソーシャルインパクトという言葉がありますが、自分が社会にどう関わるかは責任でもあり楽しさでなければならぬといふ中では、自分がどんなに頑張っても社会が変わらなければ社会に失望することになります。市民の声が社会を変えるために反映されるような仕組みをつくれるかが、我々委員会の役割だと思います。

市民公益という名前から協働まちづくりという名前に踏み込み、やっとスタートラインに立てました。市民協働の分野では仙台市はトップランナーでしたが、協働まちづくりにおいてもトップランナーになるためにこの委員会があります。我々の仲間もどんどん広がっていくのではないかと思っています。やはりサポセンは一つの場づくりですし、手引きや助成金は人づくり、仕組みづくりだと思います。協働まちづくりは、そういうものが一体となって初めてできることですし、やはり微調整をしないといけません。エンジンも、一つ車をつくればさまざまな微調整をしなければいけませんので、ぜひオートマチックではなくて、昔の手づくりの車のように自分で手を入れないとすぐ壊れるぐらいの仕組みのほうが愛を込められると思いますので、つくったら終わりではなく、これから一緒につくっていく姿勢をもっていけたらいいと思います。我々がその原動力とならねばならないという思いを強くして、最後のコメントをしたいと思います。

事務局からもぜひ一言、お願いしたいと思います。

[事務局（市民局長）]

委員の皆様には大変お世話になりましたありがとうございます。条例ができ、推進プランができて、着実に取り組みを進めてきました。今回はサポセンの機能強化という成果がまとまってきたと思っています。仙台市も新しい市長になって、これまでの市民協働を継承し、さらに拡充する姿勢でございますので、これまでの市民協働の取り組みをさらに着実に進めていく必要があろうかと思っています。

ただ、もう一つ、私どもで考えていますのは、市民協働のまちづくりという視点に加えて、地域での協働という視点で少し物事を考えていかなければいけないということです。先ほど、地域でのまちづくりコーディネーターというお話をございましたが、私ども、地域での人材育成にかなり力を入れていて、さまざまな取り組みもしております。さらに、地域と行政が向き合うということで、区役所の組織改正を行い、さまざまなプロジェクトを展開しているところでございます。オール仙台市の市民協働ということで、これらをつないで、地域から協働をどう捉えていくか、地域のさまざまな課題にどう応えていくかという視点での取り組みももう一つ加えていかなければいけないと思っています。そのあたりが新年度の課題であろうと思っています。

先ほどさまざまなご意見を頂戴した協働まちづくり推進助成事業は、いきなり募集提案で企画をしていただいて手を挙げてもらうというよりは、日頃から地域で課題認識をされ

ているところと行政、NPOがさまざまなご相談をさせていただいたうえで応募していただく流れが本来必要だろうと思っています。新年度になりましたら、地域から見た協働という流れの中でそうした一連の段取りになるようなことも考えてまいりたいと思っています。

委員の皆様方には改めて御礼申し上げます。

[風見委員長]

ありがとうございました。それぞれに委員活動をされたと思いますが、市民協働ということに携わって、多分皆さん自身もとても変化があったのではないかと思います。私は政策的には市民協働が中心だと思っていますので、ぜひ市民局には府内全体を動かしていくような組織になっていただきたいと思います。

最後になりますが、先ほど申し上げたように、あくまで我々が一先兵であって、それぞれの皆さんのフィールドにたくさんの新しい人材が眠っていると思いますので、それをつなげていただきて、この委員会のこの席だけでは何も決まりませんし動きませんので、引き続きご尽力いただければと思います。

この委員会、本当にハードな委員会で、アクションチームの方も含めていろいろな方を巻き込んでいただきました。また、事務局も委員も本当に忌憚なく意見を言っていただく人ばかりでしたので、宿題が大変だったと思いますが、よく乗り越えてこられたのではないかなと思います。

前の委員会から新しい委員会になったこの期はとても大きな転換期だと思います。また、市長も替わりましたので、やはり政策の方針が揺らぎなく、ぶれないようにぜひ今後も続けていっていただきたいと思います。委員の皆様方の本当に活発な議論に感謝を申し上げたいと思います。また、事務局含め、皆さんのご貢献に対して拍手で終わりたいと思います。ありがとうございました。お疲れさまです。(拍手)

それでは事務局にお戻しします。

[事務局（協働推進係長）]

風見委員長、そして委員の皆様、ありがとうございました。

5 閉会

[事務局（協働推進係長）]

以上をもちまして、本日の委員会を終了させていただきたいと思います。長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。—了—

〈議事録署名人〉

[委員長] 風見丈三

[署名人] 伊勢 みゆき